

事例 25

タイトル： 入浴拒否、着衣交換拒否 帰るコール

・ <事例の状況>

「夫の食事を作らないといけません。」「帰らないと主人が困ります。ここから出してください。」入浴を勧めると、「私は、毎日入浴はしています。」「昼間から風呂には入りません。」

「朝なので服を着替えましょう。」と言っても、「私は長い間勤めをして責任のある仕事をしてきました。今も金銭の管理もしているんです。そんな、人を馬鹿にしたようなことを言われることはありません。」と怒って表情が変わる。頑として聞かない、身体の不調を突然訴えることなどがある。日々の生活はほぼ自立状態である。

・ <この事例で課題と感じている点>

プライドが高く、たたずまいもきちんとし、理路整然とした話をする。この方の介護拒否へのケアを考える。

・ <キーワード>

プライドが高い。 一見健康に見える。 他者の世話が好き。

・ <事例概要>

【年 齢】 80歳代前半

【性 別】 女性

【職 歴】 娘時代に会社に勤める。親戚が仕立業をしており、厳しく修行をさせられ生計がたてられるようになる。

【家族構成】 一人暮らし 同一敷地内に家族が住む。

【認知機能】 HDS - R 9点

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 内痔核 左踵骨折 直腸ポリープ切除

【現 病】 アルツハイマー型認知症 糖尿病 高血圧

【服 薬】 マグミット・オイグルコン・セロケン・フルイトラン

【コミュニケーション能力】 習慣的挨拶は可能。自分なりに理解でき納得することは、自分本位で可能。指示命令を受け入れてくれない場面では同じ言葉を繰り返し発展が見られない。

【性格・気質】 几帳面。世話好き。綺麗好き。プライドが高い。

【A D L】 日常生活動作自立

【障害老人自立度】 J

【生きがい・趣味】 他者の世話をすること。着物を縫うこと。

【生活歴】 次女として生まれる。若い頃家庭の事情で親戚の家に住むことになる。娘時代に会社に勤めたこともあるが、仕立ての修行をして一人前になる。夫の死後3年後頃より「同じことを何度も言う」「同じ物を何度も買いに行く」「食事は自分で作っていたが、電気釜が

冷蔵庫に入っていたり、山のように食品が詰め込んであったりしている」「買い物に行くのに自転車で行くが、忘れてくる」等少しずつ家庭の中で変化が見られていたが、周囲の者の十分な注意が行かなかった。いつも定期的に利用していたお店に行って、「『預金通帳が盗られるので保証人になってくれ。』と言っているが、おかしいのでは。」と言われる。孫の七五三の着物の縫い上げを頼んだら出来なくなっていた。今までの生活状況から考えて、近医を受診しアルツハイマー型認知症と診断される。しかし、かろうじて自宅での生活が可能であった。高いところの物を取ろうとして転倒し入院したが、徘徊、自分の部屋がわからない、看護拒否などが目立ち、施設の入居を希望して入居となる。

【人間関係】 几帳面できちんとしているが、プライドが高く、現在も自分はきちんと仕事が出来ると思っている。弱い人の世話が好きで一生懸命世話をする。手伝いも嫌がらずに行う。

【本人の意向】 私が帰って主人の食事を作ってやらないといけないんです。

【発生場所】 介護老人保健施設